

年 組 名前:

問1

甲州印伝の技術を

応用した新ブランドでは、

シカ革の代わりに、何を

使っていますか。

.....

問2

文様は、山梨の自然や

特産品をテーマにして

います。

.....

問3

新ブランドの商品を、出品したパリの展示会の

名称を教えてください。

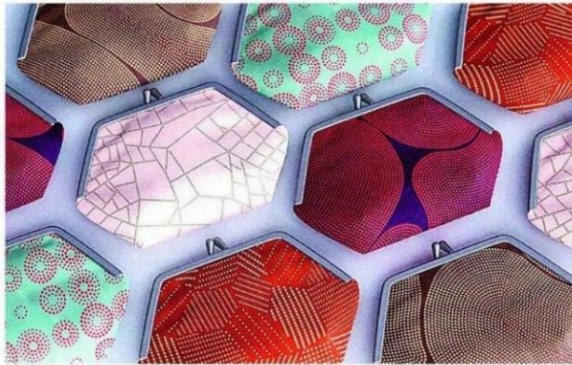
.....

問4

海外への進出は、会社にとって、どのようなメリットがあると思いますか。

.....

印伝の山本 海外進出



東レ（東京）との共同プロジェクト。印伝の山本は「甲州印伝の伝統を守りながら新しい印伝作りに挑戦する」として初めて海外に展開する。甲州印伝はシカ革に漆で文様を付けた工芸品の一種だが、新ブランドではシカ革の代わりに東レが開発したエコースタ材の人工皮革「ウルトラスエード」を採用。シカ革のような風合いや柔らかさを保ちながら、耐久性とサステナブル（持続可能）な素材を追求しオリジナル4パターンの文様を施した新ブランド「obudo」の小型ポーチ

印伝の山本（甲府市朝気3丁目、山本裕輔社長）は、甲州印伝の技術に応用した新ブランド「obudo（オブド）」を立ち上げ、海外展開を図っている。フランス・パリの展示会にスマートフォンを入れる小型ポーチなどを出品したのを皮切りに、新しい印伝製品として国内外でのブランド確立を目指す。シカ革の代わりに植物由来の人工皮革を使い、新たに山梨の自然を映した文様をデザインした。〈古守彩

人工皮革の製品。パリで出展

文様の型紙は山梨の自然や特産品をテーマに、東京在住のデザイナー・島村卓実さんが手がけた。第1弾は4パターン。それぞれ豊かな実りを生む雨や川、土壌をはじめ、ブドウや水島などから着想を得ているという。パリで今月下旬まで開催しているインテリア業界の展示会「メゾン・エ・オブジェ・パリ」には、計9アイテムを出品した。スマホや小物を入

れる小型ポーチを主軸としており、がま口を多用したのが特徴。ブランド広報は「日本の伝統や文化を感じながら、現代のデジタルツールやライフスタイルに応じたアイテムをそろえた」という。デビューの場としてパリを選んだのは、日本の文化や製品の評価が高く、島村さんの作品が広く知られているため。山本社長は「受け皿がある強みを生かして新たな印伝を提案し、欧州を中心に販路を開拓していきたい」と話している。発売は6月上旬に、国内外同時で予定している。

(2023年1月21日付 山梨日日新聞7面)